

Weekly report



株式会社 ミンカブソリューションサービス
東京都港区東新橋1-9-1

為替週間展望 = ドル円は高値圏で一進一退の動きか

[4月22日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月15日～4月19日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	153.10	154.79(16)	152.98(15)	154.38	+1.15
ユーロ・ドル	1.0648	1.0690(18)	1.0601(16)	1.0633	-0.0010
=====					
国内株・金利 / 米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	37,068.35	-2455.20	日本10年債利回り	0.840	-0.015
ダウ平均株価	37,775.38	-207.86	米10年債利回り	4.633	+0.111

<来週の主要経済統計等>

- 22日 中国最優遇貸出金利 (ローンプライムレート、1年、5年)
カナダ3月鉱工業製品価格
- 23日 独4月製造業PMI速報値、独4月サービス業PMI速報値
ユーロ圏4月製造業PMI速報値、ユーロ圏4月サービス業PMI速報値
英4月製造業PMI速報値、英4月サービス業PMI速報値
米4月製造業PMI速報値、米4月サービス業PMI速報値
米3月新築住宅販売件数
- 24日 NZ3月貿易収支
豪3月消費者物価指数、豪第1四半期消費者物価指数
独4月ifo景況感指数
カナダ2月小売売上高
米3月耐久財受注速報値
- 25日 日本2月景気動向指数改定値
米第1四半期GDP速報値、米新規失業保険申請件数
- 26日 豪第1四半期生産者物価指数
日銀金融政策決定会合(25-26日)政策金利発表
植田日銀総裁記者会見
米3月個人所得・個人支出、米3月個人消費支出(PCE)デフレータ
米4月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値

【前回のレビュー】これまでの6月利下げ開始の見通しが後ずれするとの見方が広がっている。インフレが鈍化傾向を見せずに上振れするようなこととなれば、年内利下げ見送りといったシナリオも視野に入ってくる。ドル高基調の継続により、ドル円は底固い展開が見込まれる。ただ、政府・日銀による介入警戒感が上値を抑える展開となりそうだ。

【ドル円は介入警戒感も底堅い動き】

15日には3月の米小売売上高が市場予想を上回り、前回値も上方修正された。堅調な米個人消費を受けて、米10年債利回りは4.6%台まで上昇しており、ドル円は154.45近辺まで上昇した。

16日に米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長が「最近のインフレ指標から判断して、利下げに必要な確信を得るのにはより長い時間がかかる可能性が高い」との認識を示した。議長は「インフレは昨年末に速いペースで鈍化したものの、その後は一段の進展が見られないと指摘。物価上昇圧力が根強く続いた場合は、必要な限り金利を据え置くことが可能だ」と述べた。

さらに「最近のデータがわれわれの確信を深めるものでないことは明らかであり、それどころか確信を得るには想定以上に時間がかかる可能性が高いことを示唆している」と語った。FRBによる利下げが後ずれするとの見方が広がり、ドル買い円売りの動きから、ドル円は154.70台まで上昇して、1990年以来約34年ぶりの水準まで上昇した。

18日にNY連銀のウィリアムズ総裁は、「利下げの緊急性は感じていない」「利上げは基本シナリオでないが、指標が正当化するならあり得る」との見解を示した。これを受けて、米10年債利回りは4.632%前後に上昇している。

CME FEDウォッチによると、6月のFOMCでの利下げ確率は16%程度で、据え置き確率は83%前後となっている。7月は据え置き確率が59%前後となり、1回か2回の利下げ確率が40%前後となっている。9月は1回か2回の利下げが62%前後で、据え置きが36%前後となっている。

市場では利下げは年内に1～2回程度との見方が広がっている。米経済指標の好調が続くと、年内は利下げ見送りとのシナリオすら現実味を帯びてくる。

17日に日米韓の財務相会合が開催され、共同声明に「最近の急速な円安とウォン安への韓国の深刻な懸念を認識しながら、外為市場の動向について緊密に協議していく」と盛り込まれた。これを受けてドル円は154円を一時割り込んだ。なお、19日にはイスラエルがイランを攻撃したことで中東情勢への警戒感が高まり、153円台半ばまでドル安円高が進んだ。ただ、売り一巡後は154円台を回復している。

25-26日の日銀金融政策決定会合では、金融政策の大きな変更はないとみられる。ただ、今後の利上げや国債の買い入れの減額などに関して、ヒントになるようなことがあれば円高に傾きやすくなる。

好調な米国経済を背景にFRBによる利下げ時期の見通しは後ずれしており、ドルの下支え要因となる。今後は日本の当局によるドル売り円買い介入への警戒感がドル円の上値を抑えることとなりそうだ。こうした中、ドル円は高値圏で一進一退の動きが見込まれる。ドル円の目先の予想レンジは、152.50～156.00円。

日米の経済指標やイベントとしては、23日に米3月新築住宅販売件数、24日に米3月耐久財受注速報値、25日に日本2月景気動向指数改定値、米第1四半期GDP速報値、米新規失業保険申請件数、26日に日銀金融政策決定会合(25-26日)政策金利発表、植田日銀総裁記者会見、米3月個人所得・個人支出、米3月個人消費支出(PCE)デフレーター、米4月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値などがある。

【ユーロドルは上値重く推移か】

ユーロドルは12日に地政学的リスクの高まりや欧州中央銀行(ECB)が6月にも利下げに動くとの見方からユーロ売りドル買いの動きとなり、1.0620台まで下落した。その後もFRBによる利下げ先送り観測からドルが堅調な動きを見せており、1.0601近辺までユーロ売りドル買いが進んだ。ただ、1.0600接近では下げ渋りを見せており、安値圏でのみみ合いとなっている。

ECBのラガルド総裁は、17日に欧州経済は1年以上に渡って停滞に近い状態が続いてきたが、それは終わりに近づいているとの認識を示した。「ユーロ圏の生産高は回復しつつあり、明らかに回復の兆しが見えている」と語った。為替については、特定の水準を目標としていないが、非常に注意深く変動を見守っていると述べた。

ユーロドルは1.0880台から下げが続いてきたこともあり、短期的な売られ過ぎ感から下げ渋りを見せる場面も見られる。ただ、FRBに比べてECBが先に利下げに動くとの見方は根強く、ユーロドルは上値の重い推移が続くこととなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0450～1.0750ドル。

17日の3月の英消費者物価指数は前年比+3.2%となり、事前予想の+3.1%

を上回った。コア前年比は+4.2%で事前予想の+4.1%を上回った。インフレ指標の上振れで、ポンドは1.24台前半から1.24台後半まで上昇を見せた。インフレ指標の上振れで英中銀の利下げ時期は8月か9月と見込まれている。

一方で、英中銀（BOE）のベイリー総裁は17日に英インフレが来月には急低下し、目標とする2%の水準に大きく近づくとの見通しを示した。総裁はワシントンで開かれたイベントで「来月の数字はかなり強力な低下を示すと見ている。英国には独特の家庭用エネルギー料金設定制度があるためだ」と述べた。

ポンドドルは米国での利下げ後ずれ観測などを背景とするドル高の影響で1.24ドル近辺まで下落した。17日には英消費者物価指数の上振れを受けて、下げ渋りを見せたものの、下向きの流れに変化はない。こうした中、ポンドドルは軟調な動きが継続するとみられる。ポンドドルの目先の予想レンジは、1.2200～1.2550ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、22日に中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート、1年、5年）、23日に独4月製造業PMI速報値、独4月サービス業PMI速報値、ユーロ圏4月製造業PMI速報値、ユーロ圏4月サービス業PMI速報値、英4月製造業PMI速報値、英4月サービス業PMI速報値、24日にNZ3月貿易収支、豪3月消費者物価指数、豪第1四半期消費者物価指数、独4月IFO景況感指数、カナダ2月小売売上高、26日に豪第1四半期生産者物価指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカソリューションサービスは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカソリューションサービスが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカソリューションサービス)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。